

ながみふどうそん

永見不動尊

(石浜)

江戸時代、知多郡の北は大高から南は布土ま

だが、尾張藩の鷹狩りの指定地でしたので、山林

や鳥獣の保護については、特にきびしいもの

がありました。それでも、こっそりと山林の木を

盗む者があとをたちませんでした。そこで、石

浜村では、山林を見回る山廻りをつけることに

なり、又吉という男が選ばれました。

人里離れた山奥での、たった一人で勤める山

廻りの仕事は、大変さびしいものでした。特に、

永見の山は、狐や狸も住むといわれていまし
たし、大きな蛇までいると恐れられているところ
でした。

そこで、又吉は、ある日決心して、近くの
大住院という寺を訪ねてたのみました。

「門前にお不動さんを永見の山の守り神と
してお移し願えないでしょうか。」

熱心な又吉のたのみに、大住院も同情して、
その願いをかなえてくれました。

「ありがたきしあわせに存じます。きっと大切
におまつり致します。」

と喜んだ又吉は、さっそくその不動尊の石像を
背負って、永見の山に入り、高くて見晴らしの
良い場所を選んで安置しました。

それからというものは、又吉は、山廻りの仕
事にも張り合いが出てきました。山を一廻りし
ては、お不動さんの前で一服する楽しみが出来
たからです。

春になるとつつじをいっぱい供え、秋には、
おみなえしやふじばかまなど、季節ごとの花を
供えては、お不動さんに世間話をしたり、悩み
を打ち明けたりしていました。そんなとき、お



不動さんは、いかめしい顔をほころばせて世間
話の相手になってくれました。また、真剣な顔



▲ ながみふどうそん
永見不動尊

で悩みを聞いてくれました。

こうして、又吉は、立派に山廻りの役を勤め

上げ、しあわせな生涯を終わったということ

す。

その後、明治になって、山林が開墾され、道

路が開かれるようになると、永見不動尊にお参

りする人もふえてきて、大正の末ごろには、立
派なお堂が建てられました。今、県道東浦阿久
比線沿い、阿久比町に入るすぐ手前の道路わき
にあるのが、その永見不動尊です。